

# 株式会社松永牧場

※2017年3月現在

代表者名	松永 和平	資本金	12 百万円
設立年	1973 年 8 月 29 日	売上高	3,063 百万円 (2015 年 12 月期)
事業内容	生産 (肉用牛)	経営規模	畑 8.2ha、肥育牛 6,396 頭、 経産牛 830 頭
従事者数	31 人 (うち女性 8 人。女性内訳：役員 2 人、一般職 5 人、常勤パート 1 人)		
女性活躍 支援	<p>[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援]</p> <p>産前産後休業、育児休業代替要員を確保、育児休業後の継続就業支援</p> <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> <p>施設設備関係 (休憩室・屋内・野外トイレ・シャワーの設置)</p>		



## 経営概況

(株)松永牧場は、1973年に設立された肉用牛の繁殖・肥育の一貫経営を行う会社である。2013年に農事組合法人から株式会社に移行した。経営者の松永和平氏夫妻と松永氏の弟夫妻と、正社員26人と常勤パート職員1人がいる。現在の経営規模は肥育牛6,396頭、経産牛830頭で、2015年の売上実績は30億6,281万円にのぼる。

松永牧場は、関連会社として益田市内に酪農経営の株式会社メイプル牧場、山口県萩市に株式会社萩牧場、益田市内の株式会社石見ウッドリサイ

クルなど5社を有する。松永牧場の経営の最大の特徴が、これら関連会社との連携である。たとえば、メイプル牧場との連携により肥育素牛を確保し、石見ウッドリサイクルとの連携で敷料を安定的に確保している。

その他、おからを利用した低コスト飼料生産、集落営農組織との堆肥・稲ワラ交換等、地域の未利用資源の有効活用にも力を入れている。さらに消費者の安全・安心ニーズへ対応するため、生産情報公表JAS認証を取得し、牛の出生月日、給餌した飼料の名称、使用した動物用医薬品の名称等の情報を公開している。環境問題にも正面から向き合い、いち早くISO14001を取得した。

松永牧場は設立当初、乳用種肥育農家だったが、1991年の牛肉輸入自由化を見据え、黒毛和牛の繁殖・哺育・肥育の一貫経営へ転換、1993年までに乳用種から完全撤退した。2002年に子牛の繁殖を始め、2005年からは肉用子牛の生産に酪農を利用するようになった。

## 1. 経営者の意識

松永牧場では、低コストで品質の良い牛肉を作



るために、生産原価に占める割合の高い子牛価格をいかに下げるかを、目標の第一に掲げている。低コスト生産実現のためには、平均分娩間隔の縮小、事故率の低減、飼料費の削減等が重要な要素で、繁殖部門における女性の貢献度は極めて高い。

現在、繁殖牛は830頭だが、3年以内に1200頭規模に拡大する予定である。2015年には、女性職員自らの希望で人工授精師の資格を取得し、現在、女性3人、男性2人で授精業務を行っている。受胎成績も向上し、平均分娩間隔も342日となり、大幅に改善された。事故も減少し、分娩時及び哺育期を合わせた死産率は1.8%になった。これらの成果はきめ細やかな観察と正確な記録があって成し得たもので、牛の繁殖・哺育は女性に適した仕事だと考えている。現在、子牛の価格は高騰しており、子牛市場では一頭あたり約85万円だが、自家牧場で繁殖させれば一頭34万円ですむため、経営に大きく貢献している。

その他部門でも、女性が能力を十分に発揮できるように、労働部門では、繁殖、哺育、育成、データ管理等を、事務部門では財務管理、個体管理、その他事務を女性が担当している。

このように女性の活躍によって、繁殖率の向上や事故の減少のみならず、正確なデータ管理、事務処理の敏速化、適正化がはかられ、素早い経営判断や個体判断が可能になった。

また、女性の採用により、男性側に仕事に対する考え方が変化し、公私の区別ができるようになり、職場環境が変わったという。

## 2. 子育て・出産に関わる制度

就業規則の作成や男女同一の採用条件を実施、各種保険や有給休暇、リフレッシュ休暇等の制度を早い段階から整備している。女性が出産後、職場復帰しやすいよう、復帰者と相談しながら環境整備に取り組んでいる。その結果、毎年産休を取得する従業員がいる一方、出産を理由に退職する

女性は皆無である。また職場内結婚の従業員が7人いる。

## 3. 女性従業員のキャリア形成

重労働の改善に努め、機械化を進めている。また、女性従業員を含め全従業員にフォークリフトや車輛系の資格を取得させている。そのほかにも、ISO14001や生産情報公表JAS等の講習会への参加や、出荷牛の枝肉を確認するため、定期的に東京食肉市場へ足を運ぶ等、研修制度は充実している。

## 4. 女性が働きやすい環境の整備

1973年公司設立当初から女性従業員はいたが、新卒女性を採用し始めたのは、1992年からである。それを機に、女性専用の休憩室、トイレ、シャワー室、更衣室を整備した。また、事務所や休憩室だけではなく、場内にもトイレを設置した。宿直勤務制度では、男性の場合1名で担当するが、女性の場合は必ず2名で宿直するよう配慮している。

### 審査委員の声

1973年設立の松永牧場は、松永和平代表の元銀行員としてのビジネスセンスと、畜産が好きだったという経営者の弟の生産面でのノウハウがうまくマッチする形で大規模化を実現してきたようだ。肉用牛など畜産においては繁殖、つまり分娩の安定性が重要だが、そこでは自らの希望で人工授精師の資格を取得した女性社員が活躍している。特に分娩時などでの死亡事故が減少しており、女性のきめ細やかな観察と正確な記録が貢献したようだ。さらに環境整備にも力を入れ、職場結婚が7人もいる一方、出産を理由に退職した人は一人もいないという。